

## 大雪カムイミントラDMOインタビュー

インバウンドの招致のためには、各スキー場も単体ではなく地域として売り込んでいくことが求められます。それも、スノースポーツだけではなく、例えば温泉等それぞれの地域の特性・強みを生かし、点ではなく面的な取り組みで地域に付加価値を付け、それをどのようにアピールしていくかがますます重要になってくるでしょう。本日は、広域的な活動に取り組んでいる事例として大雪カムイミントラDMOをご訪問しました。皆様の参考になれば幸いです。

岩尾専務)

---

早速ですが、大雪カムイミントラDMOの名前の由来、設立の経緯などをお聞かせください。

佐藤副理事長)

---

カムイミントラとはアイヌ語で「神々の遊ぶ庭」という意味で、北海道の中央部にそびえる大雪山連峰を、アイヌの人々が親しみと畏敬の念を込めて呼んでいたことに端を発します。北北海道の上川中部エリアにある旭川市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町の1市7町の自治体、観光協会等で構成されています。

当初は観光圏整備法に基づく観光圏の指定を目指していましたが、観光庁からのアドバイスを受けDMO設立を目指すこととし、平成29年10月に設立、11月に登録を受けました。理事長は旭川市長が兼務しています。

岩尾専務)

---

活動の狙いはいかがでしょうか。

佐藤副理事長)

---

この1市7町エリア、大雪山連峰の恵みとともに享受する大雪圏域の魅力と知名度を高め、多くの方々にお越しいただくこと、そしてより長く滞在していただき、地域の活性化につなげていくということです。

旭川市には旭山動物園があり、大雪山国立公園内には旭岳や層雲峡があります。また、近くには知名度の高い富良野や美瑛もありますので、特に観光シーズンには多くの方にお越しいただいております。ただ、観光入込客数に対して宿泊者数は1/5程度で近年推移しており、まさに通過型の観光であるという課題があります。



北海道の中央部に位置するため、「来やすく抜けやすい」ということなのかもしれませんが、宿泊客を増やすこと、特に宿泊者が減少する冬期をいかに底上げするかということが課題です。DMO設立にあたっては、通過型観光を滞在型に変え、かつ冬期の底上げを図るにはスノースポーツを核とした展開が最適と考えました。見るだけの観光とは異なりリピーターも期待できます。

1911年に日本で本格的なスキーの指導を始めたオーストリアの軍人、レルヒ氏が、翌年赴任先の旭川市において近代スキー技術の指導を行ったことから、旭川市は北海道スキーの発祥の地と言われています。

大雪圏域は北海道の内陸部にあり気温が低いため、雪質に恵まれ、まだまだ知名度は高くありませんが様々なタイプのスキー場がありますし、大雪山連峰での山岳スキーもできます。どのスキー場も主たる滞在先となる旭川市中心部からは40分程度、山岳スキーを行う場合でも80分程度で行くことができ、皆日帰り圏内にあります。都市機能と豊かな自然環境が極めて近い距離で共存しているというメリットを活かし、スキーリゾートではなく、スキーと「食」等の多様なアフタースキーを思う存分に楽しんでいただける都市型スノーリゾートを目指しています。

## 岩尾専務)

---

30万都市の近郊に多くのスキー場があるという利点を生かし、都市型スノーリゾートを目指すということですね。プロモーション戦略をお聞かせください。

## 佐藤副理事長)

---

冬にお越しいただければお分かりいただけますが、当圏域のスキー場は大変雪質に恵まれています。スキー場としても、カムイスキーリンクスは決して他のスキー場にも引けを取らないと思います。ただ、残念ながら知名度はまだまだ低いですから、DMOを立ち上げ、広域的な売り込みを図っています。また、圏域の知名度を高めるためカムイスキーリンクス、富良野、トマムの各スキー場を結び、「北海道パウダーベルト」として共通リフト券を売り出す等の活動にも取り組んでいます。

岩尾専務)

---

ICゲート、共通リフト券の導入等、圏域のスキー場間の連携はいかがでしょうか？

佐藤副理事長)

---

カムイスキーリンクスはICゲートを平成30年に導入しましたが、各スキー場は経営母体や規模が違いますのでこれからになると思います。スキー場間の連携も進めていますが、まずは、旭川市を中心としたこのエリアに泊まっていただく、それから、天候、好みなどでお好きなスキー場に行っていただくような動きを作っていくことが大事だと思います。当エリアには、初心者向けから上級者向けまで対応できる多くのスキー場があります。富良野エリアも近いです。繰り返しになりますが、重要なのは、スキー場のみならず、圏域がそれぞれ自分の魅力を磨き上げ、結びつけていくことで多くの方々に来ていただく、そして地域を周遊していただくということではないでしょうか。DMOが中心となって一年中稼げる地域づくりを目指していきたいと考えています。

岩尾専務)

---

各スキー場の経営形態はいかがでしょうか？

加藤スノーリゾート担当参与)

---

様々ですが、公設が多いです。

岩尾専務)

---

リフト・ゴンドラはいかがでしょうか？スキーズームの頃に作られ老朽化したものが多く、その更新が各スキー場の課題となっています。



加藤スノーリゾート担当参与)

---

カムイスキーリンクスは10年以内に更新したものがほとんどですが、それ以外のスキー場のリフト・ゴンドラは、30年、40年経過しています。事故が起きないように整備し、十分注意を払いながら運行しています。設備更新には多額の費用が掛かります。カムイスキーリンクスにおいても30年を超えるリフトが一基あり、旭川市と更新の検討を進めていますが、圏域には更新するのに苦慮しているスキー場もあると聞いております。



## 河野常務)

---

野沢温泉では、数年前に、マスタープランに基づき30億円をかけてメインのゴンドラを更新しました。スキー場は村の基幹産業で、スキー場が潰れれば村も潰れます。

## 岩尾専務)

---

自治体が設立したスキー場の設備更新には、条件を満たせば、過疎債、辺地債が充当できます。旭川市や東川町は過疎地域ではないので対象外ですが、例えば、比布町などはスキー場を企業会計ではなく一般会計で運営していれば対象になります。

実質的に、補助率7割、8割の補助金と変わりません。ただ、この起債はいろいろなものに使えますので、このお金でスキー場のリフト・ゴンドラを架け替えることに町民の理解が得られるかどうかがかぎになります。

## 若松カムイスキーリンクス活性化部長)

---

上川地域の基幹産業は農業で、これまではスキーは産業というよりも、地域住民の健康づくりやスポーツ振興策の一つという認識であったように思います。スキー場設備の更新で毎年の維持管理費はある程度削減できますが、架け替えとなると多額の費用が掛かります。リフト、ゴンドラを更新すれば外からのお金「外貨」を稼げるということであれば住民の方々の理解も得やすくなると思います。そのためにも、このDMOが中心となって、インバウンドの方にまずこの大雪圏域に来ていただく、それから圏域内の旭川市をはじめ、比布町や東川町のスキー場や飲食店等に行くといった流れを作りたいです。



## 岩尾専務)

---

野沢温泉のようにスキーが基幹産業でなくても、冬は農業はできないでしょうから、スキー場は貴重な冬の雇用の場ではないでしょうか。いずれにしましても、インバウンド等圏域外の方々がそれぞれのスキー場を訪れるような流れができれば住民の皆様の意識も変わってくると思います。ところでインバウンドの状況はいかがでしょうか？

## 加藤スノーリゾート担当参与)

---

旭山動物園など人気のスポットもあり、インバウンドも多くお越しいただいておりますが、スキー場へは増加傾向にあるものの、まだ多くはありません。これからです。

## 岩尾専務)

---

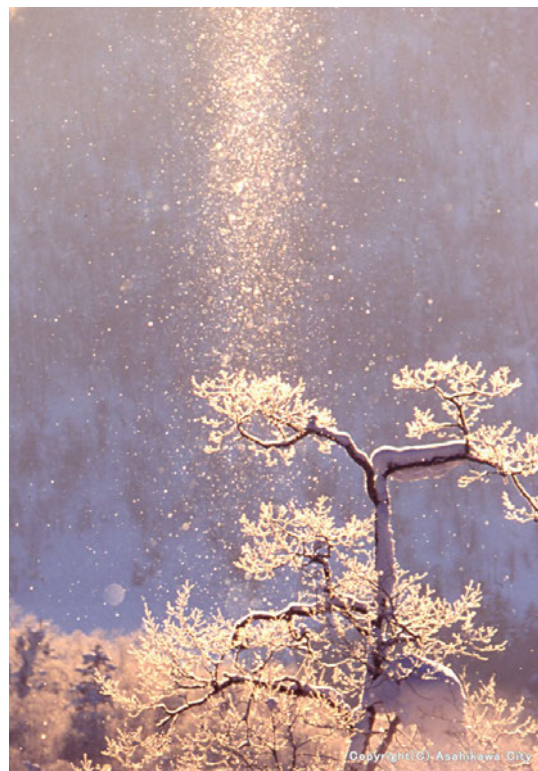
国のモデル事業で留学生にスキーを教える取り組みもされていたと思いますがいかがでしょうか。

## 加藤スノーリゾート担当参与)

---

国のモデル事業を活用し、留学生にスキーを教え、コンシェルジュとして養成する取組も行いましたが、留学生の場合、卒業後に地域から出て行ってしまう場合が多く、地域への定着が課題として見えてきました。その後も語学が出来る地域在住の方を対象にしたスキーレッスンの実施やスキーの履き方が分かるビデオをスキー場で流すなど、試行錯誤しながら進めています。

圏域の知名度が上がればますますインバウンドも増えてくるでしょう。しかし、その時にスキーの履き方も分からないインバウンドの方にスキーをどう楽しんでもらうか、また、スキーを教えるコンシェルジュを養成していくとしても、冬期だけの営業では生活は出来ないため、夏場の仕事をどう確保するか、また、スキー学校とどう役割分担していくのかなど様々な課題があります。



## 岩尾専務)

---

話は変わりますが、各地のDMOでは財源対策が課題となっておりますがいかがでしょうか？

## 板谷事務局長)

---

旭川市からの負担金と、旭川市から指定管理を受けているカムイスキーリンクスの運営によって得た収益が財源の大きな柱となっております。

旭川市との協議により、スキー場運営によって得た収益については法人の運営や活動経費に充てることが認められているため、スキー場運営による収益を増やしていくことで、市に依存しない財源基盤を確立したいと考えています。

岩尾専務)

---

最後に、今後の取り組みについてお聞かせください。

佐藤副理事長)

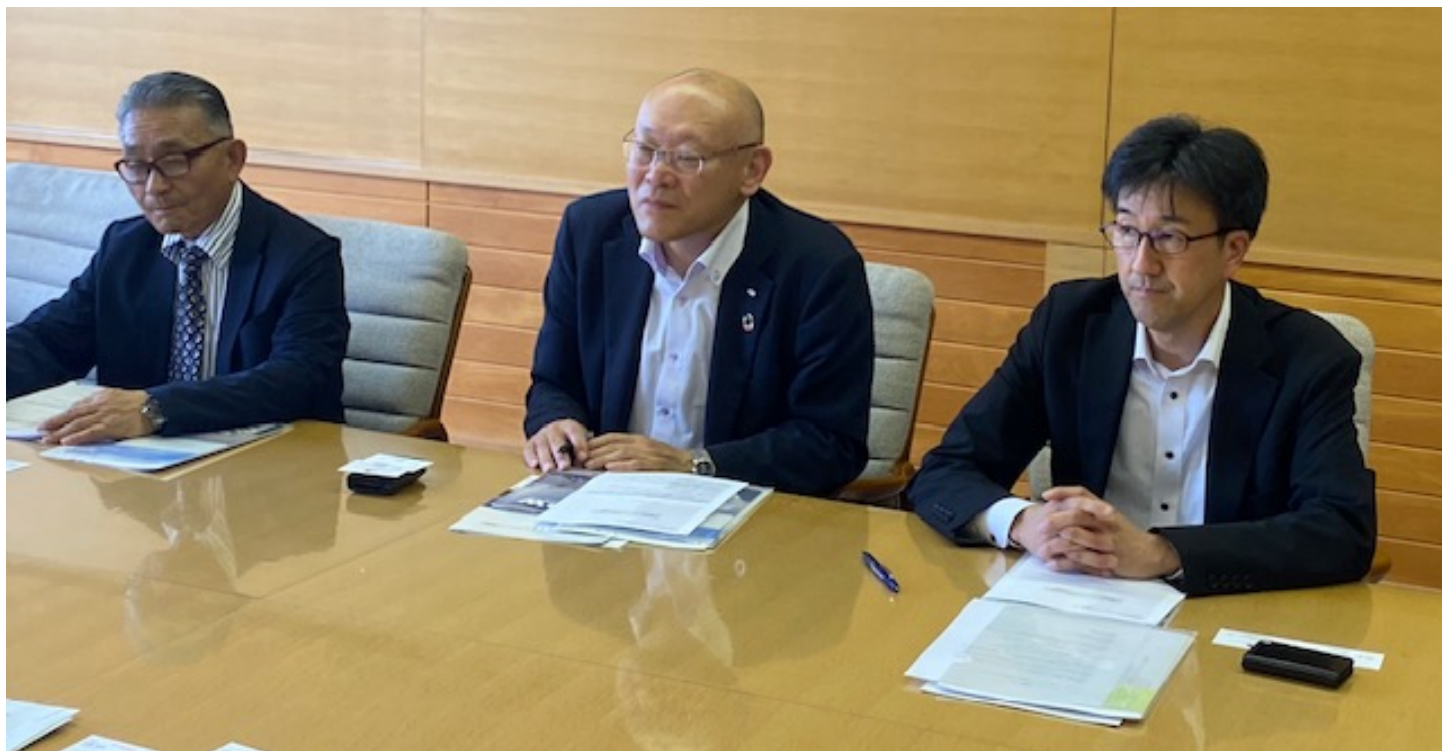
---

来月、美瑛町の加入も予定しており、これで上川中部エリアの全ての市町が揃います。スキー場のない町もありますが、通年のマウンテンシティリゾートを目指す中で、圏域全体としての取り組みを進めていくことが肝要だと思っています。スキー場の整備に加えて、2次交通の整備等受け入れ態勢を整えつつ、対外的には「大雪エリア」「カムイミンタラ」を例えば「ニセコ」のようにブランド化し、インバウンドの方に選ばれるエリアにすることが目標です。雪質には自信があります。リピーターになっていただけるよう利用者目線での取り組みを進めつつ、マウンテンシティリゾートとして世界に売り出していきたいです。

岩尾専務)

---

本日はありがとうございました。知名度はまだ高くなくとも雪質に恵まれたスノーリゾート候補地は日本にはたくさんあると思います。それぞれが切磋琢磨し、また協調し、インバウンドの方は長期滞在され周遊される方も多いですから、まず日本に来ていただく、世界の中で日本を選んでいただくということではないでしょうか。この取材が多少なりともスノー関係者の皆様のご参考になれば幸いです。



写真（左から）：加藤学スノーリゾート担当参与／佐藤昌彦副理事長／嘉屋昌幸専務理事